

# 高等学校スキー研修の指導事例

——計画・実施・教育効果——

杉	江	修	治
神	谷	琢	馬
佐	藤	正	勝
伊	藤	三	洋

## 1. スキー研修の学校学習への位置づけ

### (1) 特別活動としてのスキー研修

1978年、文部省が告示した高等学校学習指導要領では、第3章に特別活動の目標を次のようにかかげている。

望ましい集団活動を通して、心身の調和のとれた発達を図り、個性を伸長するとともに、集団の一員としての自覚を深め、協力してよりよい生活を築こうとする自主的、実践的な態度を育て、将来において自己を正しく生かす能力を養う。

特別活動の基本的な性格は、中学校段階のものではあるが、次のように具体化された解説がなされている（文部省 1978）。

①教師と生徒及び生徒相互の人間的な接触を基盤とする教育活動であること。

②すべての生徒のそれぞれの人格のよりよい発達を目指すための教育活動であること。

③生徒の個性や能力の伸長、協力の精神の育成などを図る自主的、実践的な活動であること。

④健康な心身、勤労尊重の精神、社会連帯の精神などを育て、公民としての資質を高める教育活動であること。

⑤学校の創意と教育的な識見を生かし、地域、学校、生徒などの実態に即して弾力的に実施できる教育活動であること。

さらにそこでは、指導にあたっての教師の基本姿勢も次のように要約されている。

①教師と生徒及び生徒相互の人間的な触れ合いを基盤とする指導であること。

②生徒の問題を常に我が問題として、生徒と共に考え、共に歩む教師の態度が大切であること。

③生徒に接する際には、常に温かな態度を保持し、公平かつ許容的で、生徒に信頼される教師であること。

④教師の教育的な識見と適正な判断力を生かすとともに、問題によっては毅然とした態度で指導に当たること。

⑤生徒の自主的、実践的な活動を助長し、実際の活動の場面において、常に生徒自身による創意工夫を発揮させるように指導すること。

さて、本論文でとりあげる、三重県立朝明高校のスキー研修は、特別活動のうち、学校行事の中の旅行的行事と区分けされる活動に入る。それは上記の特別活動の目的を果すための教育的機会の一つに位置づけられるものである。

旅行的行事は、その教育効果をあげるべく、近年さまざまな工夫がなされてきている。たとえば1年生に対するオリエンテーション合宿の増加（東京都では70%の全日制高校が実施——笠間 1978）は、その傾向の一側面である。また、修学旅行として行われてきた旅行的行事も広くその改善が試みられてきている。名古屋大学附属高校では数年間の修学旅行の実践をふり返り検討を加え、次の旅行計画の方向づけにあたって、その性格を「研究旅行」とすること、さらに事前指導の徹底を図ることが必要であると結論している（鈴木 1971）。愛知県立小坂井高校では修学旅行を班別学習の機会として捉えた興味深い実践を報告している（稲垣他 1981）。さらに、お茶の水大学附属中学校では、旅行に関する生徒の実態調査（家族旅行の回数、行先等）を行うとともに、一定の年限ごとの修学旅行見直しの持続的なとりくみを報告している（旭 1982）。

最近では、いわゆる物見遊山的な修学旅行を廃し、冬季のスキー研修を

それにかえる試みが多く行われている。日本修学旅行協会の調査によれば、1983年度は全国の高校の92.6%が修学旅行を行っている内、9.2%の学校がスキー修学旅行を実施しており、1984年度には11.8%がそれを予定しているという（佐々木 1985）。愛知県内の高等学校で、その実践が学校紀要に報告されている例だけをとっても、岡崎東高校（堀・鈴木 1975、鈴木他 1976、鈴木他 1978）、守山高校（毛受・猪又 1978）、作手高校（山田 1979、1980）、高蔵寺高校（川本他 1981）、稲沢高校（保健体育科スキー訓練実習実行委員会 1981）、新城東高校（校外学習研究委員会 1982）と、その普及ぶりをうかがうことができる。愛知県の隣県である三重県の朝明高校も、このような風潮から独立してはいなかった。

#### (2)朝明高校でのスキー研修採用の経過

朝明高校は1984年度が創立7年目であった。従来は修学旅行として九州または中国、四国地方を回った。それは多分に物見遊山的であったことは否めない内容であった。7回目の修学旅行を敢えてスキー研修とした経過を、それを促した要因別に以下に述べる。

①近隣の高校でスキー実習を導入する所が幾つか出てきた——朝明高校は三重県では北勢と呼ばれる地域にある。同地域内には14の公立高校と3つの私立高校がある。そのうち前年までに4校がスキー実習をとり入れていた。また朝明高校と同年にさらに1校がこれを取り入れている。

②修学旅行見直しの意見が広く高校の教育現場で聞かれるようになってきた——朝明高校は校史が浅いがゆえに新しい試みもスムーズに行える条件を備えていた。教員の間には、修学旅行は一生に一度の大旅行といった意味をすでにもたなくなっているのではないかといった共通の認識が育っていた。

③校風の確立をめざす時期に入りつつあるという考え方が教員の間には芽生えてきていた——入学生の偏差値が地域の中でも低い朝明高校では、落ち着いた学校というイメージを定着させるべく持続的な努力が払われてきた。7年目にして朝明高校の輪郭がおぼろげながらできてきた。ここで、

学力はとも角、行動力のある学校といった要素を加えたいという願いがあった。

④生徒定員数が減少し、指導が徹底しやすくなった。

## 2. 本スキー研修の指導上の特色

学習指導要領では、特別活動は各教科とは章立てが別になっている。しかし、だからといって双方が全く別の指導理念、指導体系によっていいというわけではない。それらは相互に有機的に結びつくことによって、高校生の学習を多面的、統合的に促す機会となることはのべるまでもない。ここで報告するスキー研修の事例では、その活動を明確かつ実質的に、教師による意図的な指導の一環と位置づけ、正に教科指導と同等の指導上の配慮を加えた。

指導過程は、目標・課題づくり、学習指導のとりくみ、評価の3つのステップからなる。最適な指導過程を構成するに際して、各ステップの条件は独立でなく、互いの十分な関連性を考慮しなくてはならないことはもちろんである。このスキー研修の実施に際して、各ステップには、相互の関連性も十分に配慮した条件設定につとめた。そしてさらに、生徒の集団活動を重視するという視点をそれに加えたのである。

次に本スキー研修の指導上の特色を、指導過程に沿ってまとめよう。

### (1)学習目標、指導目標を教師、生徒双方に明確化した。

学習目標、指導目標を明確化することは、生徒の参加に明確な方向づけを与えると同時に、教師の指導上の方向性を明らかにすることにもなる。

この研修では、実施計画と並行して、学習指導の目標を明らかに記述する作業を行った。その目標は教師にとっての指導目標としての表現にとどまらず、生徒にとっての学習目標として示しうる形にまで具体化された。その内容は後に3の(1)で示す。

指導目標は、準備の過程で教師はそれを把握した。また学習目標は、生徒に対して事前指導でくり返し提示、解説し、さらに研修直前にはスキー

研修の「しおり」に目標を自己記入させ、再認を通してその理解、定着を図った。

(2)指導過程では生徒の主導性を尊重し、一方、学習内容とステップの枠づけは教師が主導的に行なった。

特別活動、学校行事は生徒の主導的活動の機会にふさわしい。ただ、生徒の主導性といった場合、何もかも彼らに任せることは、教育の効果性の意味から不適當である。少なくとも、何を学ぶべきかは多くの場合教師が決めなくてはならない。「放任」または「管理」といった両極端に陥らず、生徒の主導性の保障と教師の枠づけのバランスをとることは難しい課題である。

この研修では、教育の目標は教師が定めた。この面の意志決定は教師の側の仕事であることは、あえて議論するまでもないであろう。また、研修のスケジュール、すなわちとりくみのステップも教師が主に決定した。われわれは、学習の枠づけの或るレベルまでは、教材と学習内容にかかわる知識を多く持つ教師の側が行うべきだと考える。しかし各ステップでの学習活動は、生徒が主導的に動かねばならない。一定の枠を与えた上で、学習活動は生徒が主導的に行うのである。教材に働きかける場面では生徒が主役となる。スキーの練習、宿での自由時間、反省会といった場面では、時間の枠と課題は教師が示し、とりくみは生徒が行う。このかね合いについての一事例をわれわれはここに示したつもりである。

### (3)指導と評価活動の一体化

評価が指導過程と切りはなすことのできないものであることはすでに広く明らかになっている。評価によって得られる情報を、指導の改善や学習の方向づけに活用するために、指導過程で適切に、またその機会を増す形で、導入を図ることが必要である。

修学旅行等の学校行事では、一般にその終了後の早い時期に感想文を書かせたり、観察した内容をレポートさせるといった形で、学習内容の確認

を生徒に行わせると同時に、その効果を教師が把握するための資料収集を行っている。それらの活動は評価機能をもってはいるが、教師によっても個々の生徒によっても捉え方はさまざまであろう。行事終了後の煩瑣な作業として形式的に、おざなりに実施、回答する場合も少くないだろう。次の学習スケジュールがはじまれば、感動、感想もうすれるかもしれない。また評価結果を教師、生徒が生かす機会はなかなかやっけてこない。

数日間にわたる学校行事では、行事終了後の総括的な評価ばかりでなく、1日1日を区切りとした、または活動の単位を区切りとした、形成的な評価を多くとり入れることも必要なのではないだろうか。それは一般の教科指導の場合と同様である。また、個々の学校行事は実施される機会も少ないがゆえに、次の学習指導のステップに移るごとに、その指導や学習の方向づけに役立つ情報が多く集められることがことさら有益であろう。

われわれは、このスキー研修で、多様な評価活動を機会あるごとに導入した。評価項目等の準備は、指導目標の設定と並行して検討した。ここでは研修の過程で無理なく評価を入れてゆくための工夫も必要となる。その一事例を報告するのも本論文の役割と考えている。具体的には次のような評価活動を導入した。

①スキー研修実施前の評価（第1回）

- ・ソシオメトリック・テスト1（グルーピングに利用）
- ・態度調査1（スキーに対する態度、団体生活に対する態度の2側面）

②スキー研修実施前の評価（第2回）

- ・ソシオメトリック・テスト2（第1回のソシオメトリック・テストとの違いを比較することにより、スキー研修に行かない期間の変化傾向をみる基礎資料とすると同時に、次に行う研修終了時の評価に対する事前調査資料とする）

- ・態度調査2（様式は第1回と同じ。意義はソシオメトリック・テスト2と同様）

③スキー研修直前の評価

- ・自己評価票による評価（研修での学習目標、グループの仲間の確認等、

事前指導の内容の習得を評価する)

④スキー研修中の形成的評価

- ・スキー指導員による、技術上達に関する生徒個別の評価
- ・1日の日程終了時の、自己評価票による評価

⑤スキー研修終了後の評価

- ・ソシオメトリック・テスト3（第1回、第2回と同じ様式）
- ・態度調査3（同上）
- ・感想文

(4)生徒の集団活動促進への配慮を加えた。

スキー研修は、宿泊時の部屋割やスキー指導の上で、どうしても班編成が必要となる。それはまた、グループ経験のよい機会でもある。われわれはこの機会を効果的に活用するための幾つかの配慮を加えた。

その1つは、研修の目標に友人関係を広め深めることを明確にかかげ、事前指導を通してそれが生徒に十分に徹底するように努めたことである。

2つ目は、スキー練習時と宿での生活の2つの場面で別々の班（スキー班、生活班）を編成し、個々の生徒が接触する仲間の多様化を図ったことである。とくにスキー班は2学級を混在させる形で編成し、学級をこえた交流が可能な事態をつくった。

3つ目は、スキー班についてはソシオメトリック・テストによる選択関係を多く含むという基準でのグループ編成を行ったことである。ソシオメトリックな選択関係を重視したグループ編成の効果は、長期にわたって検討すれば必ずしも有効なものではない。(Shaw & Shaw, 1972)。しかし3～4日の短期の場合は、対人関係の調整の不要なこの基準が有効性を発揮するであろう。一方、生活班は名簿順とし、むしろ人間関係の調整を経験する場とした。

4つ目は、スキー班、生活班ともに、メンバー全員に何らかの役割を与えたことである。集団所属意識を高めると同時に役割習得の機会となるであろう。

5つ目は、学級単位のレクレーションを生徒主体で企画させ、学級としての1つの集団目標を明確に与えたことである。これによって、メンバー間の密接な相互作用が促進される機会が1つ設定できると考えたのである。

### 3. スキー研修の目標

#### (1)目標

教師がスキー研修によって生徒に習得させたいと図った指導目標は次の諸事項である。

①スキー研修に必要な体力を養うという目標のもとに、全国平均に劣る朝明高校の生徒の体力づくりを行う。また、体力づくりへの構えをつくる。具体的には体育の授業を中心に持久走等を積極的に導入し、その実現を図る。授業と特別活動の間に一貫性をもたせる試みでもある。

②スキーの基本的な技術を身につけさせる。スキー技術の習得を通してウインター・スポーツへの理解と積極的な態度を身につけさせる。また、冬の自然に触れることを通して、新鮮な感動体験を得る機会をつくる。

③寝食を共にし、厳しい自然の中で助け合う機会を通して生徒間の相互理解を深め、仲間づくり、学級集団づくりにつながる成果を得たい。また同時に、適切な人間関係維持の技能を身につけさせたい。

④集団生活、団体生活をスムーズに行うための約束の順守の重要性に気づかせ、平素の学校、家庭での基本的な生活習慣の改変に役立つ体験をさせたい。

⑤スキー技術の習得状況や対人関係、自己の変化を自己評価させることを通して、学習参加への動機づけを高める。また自己評価にもとづく自発的、主体的な努力の方向づけの体験を勉学面にも波及させたい。

さて、このような指導目標、すなわち教師の指導意図は、生徒の側も自らの課題として理解している必要がある。ただし、教師の意図と同じことばでそれがなされることは必ずしも適切でない場合がある。

この研修では事前指導の中できり返し次のような簡潔な形で生徒にとっ



での学習目標を示した。

①態度目標

- ア. 生活の心得を守る。
- イ. 友人の良い面を発見する。
- ウ. 日程の時間を守る。

②技能目標

- ア. 装備の点検と取扱いを習得する。
- イ. 初歩的動作を習得する。
- ウ. 滑走と停止の方法を習得する。

#### 4. 計画と準備

##### (1)教員の活動面の計画と準備

###### ①引率者会議，予備調査，事前指導

表1には事前の準備のために教師が行った活動を一覧にした。そこでは次のような配慮を加えた。

a. 研修先であるスキー場並びに宿の下見を十分に行い、状況の把握につとめた。とくに前年度2月には他校のスキー研修に同行し、その実施実態をつぶさに学んだ。また3回目の下見では教員がスキー・スクールに体験入学し、その概要を把握するのとあわせて、朝明高校のスキー実習での指導意図を十分にスキー・スクール側に説明した。

b. 指導目標の明確化と学習目標の明示につとめた。

c. 直前指導もふくめ、15回にわたる多様な内容の事前指導を行った。各回ともにスキー研修に向けての事前指導である旨生徒に明らかにされた。

d. 2学期に入り週1回持久走を体育の時間に行った。スキー研修に向けてのものであることは生徒に明らかに伝えられた。また、冬休みはなわとび1日100回という課題を与えた。

e. 調査票の作成等、通常の計画以上の作業があるため、6回にわたる引率者会議を開いた。

###### ②引率のための役割分担とその職務内容

表1 準備日程

月 日	行 事	内 容	
(前年) 12月下旬	研修先下見	宿泊施設、スキー場下見(教職員14名参加)	
2月中旬	研修先下見	菰野高、四日市西高のスキー研修に随伴、(教職員のべ6人参加)	
3月中旬	研修先下見	スキースクールとの打合せ(概要聴取、朝明高の方針説明)、教員の体験入学(3名参加)	
5月16日	事前指導	映画「雪の信州」	
5月23日	事前指導	ビデオ「菰野高のスキー研修」、スライド「2月中旬下見の記録」	
夏休み	地区懇談会	保護者への概要説明	
9月5日	第1回引率者会議		
9月17日	事前指導	生活班、スキー班づくり	体 育 授 業 で の 週 1 回 持 久 走 指 導
11月9日	事前指導	スキーウェアの試着会	
11月～12月	予防接種	インフルエンザ(各市町村の医療機関)	
12月初旬		生徒主導の「実行委員会」の組織づくり、活動開始	
12月11日	第2回引率者会議		
冬休み	冬休みの課題	体力づくり(なわとび)	
1月9日	事前指導	集団行動(所属グループの確認)	
1月11日	第3回引率者会議		
1月14日	事前指導	レクレーション系の活動の指導、援助	
1月16日	事前指導	保健調査(健康状態のチェック)	
1月23日	事前指導	集団行動訓練	
1月25日	事前指導	スキー技能の解説	
1月30日	事前指導	学年で頭髪、服装検査	
2月5日	第4回引率者会議		
2月6日	事前指導	スキー前、校医検診 / HRで服装、携行品、心得の検討	
2月7日	第5回引率者会議		
2月8日	事前指導	体育授業での体力補強	
2月9日	事前指導	携行品検査、保健指導、スキー用具装着実演、諸注意、連絡	
2月12日	直前指導	頭髪検査、携行品再検査	
2月13日	直前指導	学校長訓話、団長訓話、諸注意、連絡	
2月13日	第6回引率者会議		

表2には教職員の役割と分担、さらに職務内容を示した。引率者数は生徒数に比して余裕のある配置をした。

## (2)生徒の活動面の計画と準備

### ①グループ編成

1人の生徒は生活班、スキー班の2種類のグループに同時に属することになる。グループ編成は教師が行った。

生活班は宿での活動の単位である。同じ部屋に宿泊する者同士からなる。編成は学級の名簿順という手続きによった。男、女は別々に編成した。この班には部屋長をはじめとして各係を置き、係の責任と指導性のもとに全員が動くという自主的な体制をとった。係は教師からの指示を伝えたり、相互に連絡をとるという役割も果たした。

スキー班はスキー練習時の、各指導員につくグループがそれにあたる。そこには班員互選による班長を置き、班員の状態に常に注意させ、指導員と班員をつなぐ役割をうけもたせた。スキー班は各班ともに2つの学級のメンバーが混在するように編成された。編成基準は学校内での友人をたず

表2 引率者の役割分担と職務内容

役 割	引 率 者	生 徒	内 容
団 長	葛山		
総 務	神谷・佐藤	室長・副	各係との連絡調整、渉外、諸伝達
指 揮	伊藤	室長・班長	集合、整列、点呼、司会、指示、連絡
生徒指導	藤原・大矢 広・吉川 藤田・土屋	実行委員 班長・美化 用具・保健 部屋長	研修心得の指導、巡視の計画 スキー用具の点検整理、舎内清掃 入浴計画、指導、入浴後の点検 非常口の確認
研修記録	清水・穂積	記録・室長	写真撮影計画と記録写真撮影（写真屋 同行）、研修記録とアンケートの実施
保 健	西村・生川 宇賀	保健	健康管理、保健指導、患者の看護 入浴場の整理、食器の後片付け
会 計	南谷	HR会計	会計事務、状況により保健補佐

ねたソシオメトリック・テストによる選択関係がグループ内に多くなることである。グループ内は学級に対応した下位グループが2つできることが通常であったが、この下位グループ間をつなぐ選択関係が少くとも1つ以上あることを編成の基準に加えた。ここでも性別の編成を行った。

生活班、スキー班のグループ数とグループ構成人数は、後に「5, 実施」の所で示す。

### ②係活動

生活班ではメンバーに多様な係を割りあてた。その分担は、メンバー決定後に「部屋長1名、各係は1～2名で、1人必ず1役を担い、班内で各係もれなく担当者を配置すること」という教示のもとで、班内の話し合いで決定させた。ただし、直前に欠席者が出たため1人2役といった事例も少数あった。

各係名とその仕事の内容は室長、部屋長及びスキー班長の仕事とあわせ表3に示す。

なお、部屋長や各係の自覚をもたせるために、学年集会時を利用して、各部屋別に分かれたり、係ごとに集まる等の練習を行った。

### ③実行委員会

スキー研修は1学期から2学期前半までは教師主導で計画され準備がすすめられてきた。しかしその方向の概要が明らかになってきた2学期後半に入り、一部の生徒から「自分たちの修学旅行にしたい」という要求が出はじめ、自主的に委員会を組織したい旨の申し出があった。そこで急遽全学年的な組織とするべく、生徒と話し合いのうえで各学級から希望者を募った。最終的には全学級にわたる7名が出、これを「実行委員会」と名付けた。

実行委員会の主な仕事は、計画の細部にかかわる生徒側の意見の提出と調整であった。11月下旬から、ほぼ毎日昼休みか放課後に生徒会室で通常20～30分の会議がもたれた。服装、持ち物などについては学級で集約された生徒の意見がこの委員会を通して積極的に教師に出される中で決定されていったため、生徒側からの不満、反発も少なかった。また、壁新聞の

表3 係名と仕事の内容

室長・副室長	集合のとき指示、点呼、報告をする。 連絡事項を全員に徹底させ、各係にも協力する。
スキー班長	指導員との連絡、指示を班員に確実に伝える。 ナップザックにしおりと筆記用具を入れて保持する。 班員のケガや病気は指導員の指示を受けてから報告。 各班の研修内容について記録し、感想と予定をメモする。
部屋長	部屋の管理（美化、整理、指示）と連絡、報告など。 人員点呼と傷病の報告。貴重品袋の取扱い責任。
美化係	部屋の清掃、整理の指示をし、美化の責任をもつ。 毎日点検して報告する。
保健係	同室者の健康状態と衛生面に気を配り、連絡、報告。 看病、手当ての補助作業。洗面、浴場の整理。
用具係	各部屋でのレンタル用品の保全、整理を指示する。 用品返却のとき点検し、部屋長と共にまとめて運ぶ。
記録係	同室者の「記録用紙」、「アンケート」の回収と提出。 各部屋の生活状況と感想などを毎日就寝前にメモする。
レク係	バス、列車内でのレクレーション・リーダーとして活動する。 宿舎内でのHR活動や自由時間の活用を企画、運営する。

体裁で「実行委員会ニュース」が作られ、研修の方針や内容がすみやかに生徒に流された。この情報はまた、次の委員会での生徒側の意見形成に活用された。さらに、この委員会でスキー研修の記念品としてペナントを作ろうというアイデアが出され、教師との協力により実行に移された（これは後に宿泊所、スキー指導員への生徒からのお礼にも使われた）。

実行委員会の委員は研修中は宿、スキー学校へのあいさつなど、生徒代表としての役割を果たすと同時に、教師と生徒との連絡、調整の役割をつとめた。

なお、この委員会は教師に迎合的な生徒で構成されたものではない。むしろ当初は教師の主導性に対する反発から生まれてきた。したがって、生

徒と教師のスキー研修に対するとりくみの構え、認識の違いについて相互に独立の立場で検討し合う場をもつことになったのである。教師の側には、朝明高校の実情の中でこのような自発的組織が生まれてくるという予想はなかった。指導計画の枠内になかった生徒の活動ではあったが、実行委員会参加者はもちろん、生徒代表が主体的にかかわっていることから、他生徒の参加態度にもポジティブな影響を与えたという、付随的な収穫がここにみられたのである。

#### ④不参加者の扱い

病気による者は自宅での療養。またその他の事由による者は午前中登校、一定の学習課題にとりくませた。

### (3)教材、用具

#### ①スキー研修のしおり

生徒配布用のスキー研修のしおりを作成した。B6版51ページからなる。内容は次のとおりである。

- a. 目標——スキー研修の目標を態度面、技能面について記述。
- b. 期間および場所
- c. 参加者数——組別、性別に記述。
- d. 組織——教職員の組織一覧とその役割内容、生徒の係一覧とその役割内容、生徒各係分担表（全氏名を記載）、生活班名簿、スキー班名簿。
- e. 参加心得——事前および研修中の留意諸点をまとめる。これは事前指導の教材として活用する（資料1参照）。
- f. 服装および携行品——規定および忘れものチェック表。
- g. 日程、活動スケジュール（「5. 実施」で詳述）。
- h. 参考資料——ホテル案内図、ゲレンデ案内図、スキーの基本技術解説、安全のための留意点。
- i. 自己評価票——1日を単位とした自己評価票を、事前指導用2回分、直前指導分、スキー実習4日分、計7回分記載。書き込み、1枚ずつ切りとることができるようになっている（具体的様式例2つと、その他は評価

項目についてののみ資料2に示す）。

#### ②スキー指導員による技能進捗評価票

スキー技能については、指導員が自から担当する班の生徒全員の習得状況を即時的に評価した。評価票の様式は資料3に示す。なお、この評価票には、指導員の指導に役立てるための、生徒の健康状態についての自己診断も付した。午前、午後各1回ずつ、1日2度の記入を求めた。

#### ③ソシオメトリック・テスト、態度調査

ソシオメトリック・テストと、スキー及び団体生活に対する態度調査は、事前調査2回、事後調査1回の計3回にわたって実施した。用いた質問紙は各回とも同一の内容である。

ソシオメトリック・テストは、「同学年内での親しい友人3人」、「同学級内で親しい友人3人」の2基準を用いた。

態度調査は、スキーと団体生活の2領域についてそれぞれ感情面（好き-嫌い）、評価面（良い-悪い）、行動面（やりたい-やりたくない）の3側面合計6項目に7件法で評定を求めるという簡略な形式で行った。

ソシオメトリック・テスト、態度調査は同一の用紙に印刷されており、同時に実施した。その様式は資料4に示した。

#### ④事後感想文

スキー研修終了後に感想文を書かせた。その様式は資料5に示した。

#### ⑤スキー用具

スキー用具はスキー場宿舎のレンタル用を用いた。

## 5. 実 施

### (1)日程

1985年2月14日～18日。

### (2)参加者数

表4に参加生徒数および当日の欠席者数を男女別に示す。引率者として教員15名、職員1名が参加した。

## (3)班の数および人数構成

スキー班は男、女各9班、生活班は男子18班、女子12班からなる。表5にはスキー班、表6には生活班の人数構成を示した。

## (4)活動スケジュール

活動スケジュールは一覧表にして次頁以降に示す。このスケジュールはスキー研修のしおりに同様に印刷されており、生徒に知らされている。

## (5)費用

交通費、宿泊費、指導員費用、スキー用具借用費等、生徒1人につき約46,000円を要した。

表4 スキー研修参加生徒数

	男	女	合計
参加者	132	93	225
不参加者	6	3	9

表5 スキー班の人数構成 単位：グループ数

	7人	8人	9人	10人	11人	12人	13人	14人	15人	16人
男							1	4	1	3
女	1		1	3	2	1	1			

表6 生活班の人数構成 単位：グループ数

	5人	6人	7人	8人	9人
男	1	1	8	8	
女		2	2	5	3



## 第1日 活動スケジュール

活 動	集 動	仕 事 の 内 容	集 合 時 間	集 合 場 所	担 当 者	
					生 徒	教 職 員
6:50	集 諸	(体育の服装で) <ul style="list-style-type: none"> <li>• 整列 (クラスごと)</li> <li>• 点呼報告</li> <li>• 服装, 持ちもの確認</li> <li>• 移動</li> <li>• 諸注意</li> </ul>	6:50	近鉄四日市駅 西  6号車前方	全員  全員 クラス長, 副 クラス長 クラス長 全員	全員  担任, 大矢, 広 担任 → 伊藤  担任, 生徒指導担当者  伊藤 担任 → 伊藤
7:20	( 乗 車 )	• 車内点呼報告			クラス長, 副 クラス長	担任 → 伊藤
7:30	( 発 車 )	• 昼食 (持参の弁当) • バス車内点呼報告			全員 クラス長	全員 担任 → 伊藤
17:30	(熊の湯到着) 諸 準 備	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 入館あいさつ</li> <li>• 宿舎に荷物を収める</li> <li>• 各部屋に予め用意されたスキーウェアの確認</li> <li>• 部屋の状況の確認報告</li> <li>• 避難経路, 非常階段, 食堂の確認</li> <li>• スキー班長打ち合せ</li> <li>• スキー学校との打ち合せ</li> </ul>	17:30  17:40 18:00	生徒代表1名 全員 全員  2階243号室 2階201号室 地階乾燥室	団長, 神谷 全員  佐藤 佐藤 藤原, 穂積 伊藤, 神谷, 佐藤	
休	息				部屋長 部屋長 スキー班長	佐藤 佐藤 藤原, 穂積 伊藤, 神谷, 佐藤

18: 25	夕	食	<ul style="list-style-type: none"> <li>保健係打ち合せ</li> <li>美化係打ち合せ</li> <li>配膳の確認</li> <li>集合完了(着替えしない)</li> <li>部屋別に着席</li> <li>点呼報告</li> <li>諸連絡(部屋長はメモする)</li> <li>夕食</li> </ul>	18: 00 18: 00 18: 20 18: 25 18: 25 18: 30	2階201号室 3階301号室 1階大食堂 食堂入口 全員	保健係 美化係 部屋長 部屋長 スキー班単位 全員	西村, 生川, 宇賀 土屋, 大矢 伊藤 担任→伊藤 伊藤 全員 (男子)藤原, 生川, 広 (女子)穂積, 土屋, 藤田 (男子)大矢, 吉川 (女子)南谷, 宇賀
19: 15	スキー用具点検		<ul style="list-style-type: none"> <li>1~3班, 11~13班の用具点検</li> <li>4~6班, 14~16班の用具点検</li> <li>7~9班, 17~19班の用具点検 (終わった靴をもって部屋へ)</li> </ul>	19: 15 19: 25 19: 35	地階乾燥室 " "	スキー班単位 全員	
19: 45	入浴		<ul style="list-style-type: none"> <li>入浴(用具点検の終わった班から順に)</li> <li>入浴場の整理</li> </ul>	19: 25 21: 15	地階浴場	全員 1, 2組の男, 女保健係	
21: 30	記録		<ul style="list-style-type: none"> <li>「記録と反省」個別に記入(自己評価), 部屋長に提出</li> <li>部屋長会(「記録と反省」教員に提出)</li> <li>就寝点呼報告</li> <li>見回り</li> </ul>	21: 30 22: 00 22: 25	各部屋 2階243号室 各部屋前廊下	全員 部屋長 全員, 部屋長	伊藤, 清水, 穂積 担任→神谷 教職員
22: 30	就寝						

第2日 活動スケジュール

活 動	仕 事 の 内 容	集 合 時 間	集 合 場 所	担 当 者	
				生 徒	教 職 員
6:30 起 整	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗面, 室内整理, 清掃</li> <li>清掃点検, 報告</li> </ul>	7:10	(男子)243号室 (女子)233号室	全員 美化係	全員 土屋, 大矢
7:25 朝 食	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態報告</li> <li>集合(貴重品をもって出る)</li> <li>着席(部屋別)</li> <li>点呼, 報告</li> <li>諸連絡</li> <li>朝食</li> </ul>	7:10 7:25 7:30	2階213号室 1階大食堂 食堂入口	保健係 全員 部屋長 全員	西村, 宇賀 全員 担任→伊藤 伊藤 全員
8:00 準 備	<ul style="list-style-type: none"> <li>貴重品を預ける</li> <li>諸準備I(帽子, ゴーグル, ウェア上・下, 手袋, ゼッケン, スキー靴, 軍手, ナップザック)</li> <li>諸準備II(スキー, ストック)</li> <li>用具指導</li> </ul>	8:00	フロント 各部屋 地階乾燥室 地階乾燥室及び玄関前	部屋長 全員 全員 全員	全員 全員 神谷, 伊藤, 佐藤, 土屋, 吉川, 南谷, 藤原, 広, 穂積 清水, 生川
8:40 整 列	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキー班長打合せ</li> <li>宿舎見回り</li> </ul>	8:30 8:40	玄関前	スキー班長	西村, 宇賀, 広

9:00	開講式	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合, スキー班ごとに整列</li> <li>点呼, 報告</li> <li>準備運動</li> <li>閉長あいさつ</li> <li>生徒あいさつ</li> <li>スキー学校代表者あいさつ</li> <li>指導員紹介</li> <li>研修の心構え, 諸連絡</li> <li>健康チェック (記入表に記入)</li> <li>病欠者の確認, 指導員への連絡</li> </ul>	8:40 8:50	玄関前 玄関口	全員 スキー班長 全員 生徒代表1名	全員 (男子) 神谷, (女子) 佐藤 →伊藤 伊藤 葛山, (進行) 伊藤 (スキー学校側から) (スキー学校側から) 伊藤 伊藤 (→指導員) 伊藤, 神谷, 佐藤 (指導員) (指導員) 教職員 (指導員) 全員 伊藤 (→指導員)
9:30	スキー研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>ゲレンデへ引率</li> <li>スキー研修</li> <li>ゲレンデパトロール</li> </ul>	9:30		全員 全員	
11:30	昼食	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホテルへ引率</li> <li>昼食 (スキー班別)</li> <li>集合</li> <li>健康チェック (記入表に記入)</li> </ul>		1階大食堂 玄関前	全員 全員 全員 スキー班長	
13:00	スキー研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>宿舎見回り</li> <li>ゲレンデ引率</li> <li>スキー研修</li> <li>ゲレンデパトロール</li> </ul>	13:00 13:00		全員 全員	西村, 宇賀, 藤田 (指導員) (指導員) 教職員 (指導員) 藤原, 穂積, 吉川, 清水 伊藤→神谷
15:00	用具収納	<ul style="list-style-type: none"> <li>ホテルへ引率</li> <li>スキー, ストックの収納, 手入れ</li> <li>点呼, 報告</li> </ul>		地階乾燥室 ロビー	全員 全員 スキー班長	

入浴	<ul style="list-style-type: none"> <li>身の回り品整理</li> <li>入浴 (帰着順)</li> </ul>	各部屋 地階浴場	全員 全員	(男子) 佐藤, 生川 (女子) 西村, 藤田
休息	<ul style="list-style-type: none"> <li>貴重品を出す (各自管理)</li> <li>入浴場の整理</li> </ul>	フロント 地階浴場	部屋長 3. 4組男女 保健係	(男子) 佐藤, 生川 (女子) 西村, 藤田
夕食	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合</li> <li>着席 (部屋別)</li> <li>点呼, 報告</li> <li>諸連絡</li> <li>夕食</li> </ul>	1階大食堂	全員	全員
夕べのつどい	<ul style="list-style-type: none"> <li>集合</li> <li>着席 (クラス別)</li> <li>点呼, 報告</li> </ul>	食堂入口	部屋長 全員	担任→伊藤 伊藤 全員
記録	<ul style="list-style-type: none"> <li>映画2本上映</li> <li>「記録と反省」個別に記入 (自己評価), 部屋長に提出</li> <li>部屋長会 (「記録と反省」教員に提出)</li> <li>就寝点呼, 報告</li> </ul>	2階大広間	全員 クラス長, 副 クラス長 全員	清水, 穂積 清水, 穂積 全員
就寝		各部屋 2階243号室 部屋前廊下	全員 部屋長 全員, 部屋長	伊藤, 清水, 穂積 担任→神谷 教職員

## 第3日 活動スケジュール

活 動	仕 事 の 内 容	集 合 時 間	集 合 場 所	担 当 者	
				生 徒	教 職 員
7:00 起 整	<ul style="list-style-type: none"> <li>洗面, 室内整理, 清掃</li> <li>清掃点検, 報告</li> </ul>	7:50	(男子)243号室 (女子)233号室	全員 美化係	全員 上屋, 大矢
7:55 朝	<ul style="list-style-type: none"> <li>健康状態報告</li> <li>部屋美化点検</li> <li>集合(貴重品をもって出る)</li> <li>着席(部屋別)</li> <li>点呼, 報告</li> <li>諸連絡</li> <li>朝食</li> </ul>	7:55 8:00 8:00	2階213号室 1階大食堂 食堂入口	保健係 全員 部屋長 全員	西村, 宇賀 大矢, 上屋 → 伊藤 全員 担任 → 伊藤 伊藤 全員
8:30 準 備	<ul style="list-style-type: none"> <li>貴重品を預ける</li> <li>諸準備 I</li> <li>諸準備 II</li> <li>用具指導</li> </ul>	8:30 8:30	フロント 各部屋 地階乾燥室 地階乾燥室及 び玄関前	部屋長 全員 全員 全員	担任, 上屋, 広, 穂積, 巡 回 全員 神谷, 伊藤, 佐藤, 小池, 吉川, 南谷, 藤原, 広, 穂積 清水, 生川
9:10 整 列	<ul style="list-style-type: none"> <li>スキー班長打合せ</li> <li>宿舎見回り</li> </ul>	9:00 9:10		スキー班長	西村, 宇賀, 藤田

	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合, スキー班ごとに整列</li> <li>・点呼, 報告</li> <li>・準備運動</li> <li>・健康チェック (記入表に記入)</li> <li>・病欠者の確認, 指導員への連絡</li> <li>・諸注意</li> <li>・記念写真</li> </ul>	<p>9:10</p> <p>玄関前 玄関口</p>	<p>全員 スキー班長</p> <p>全員 スキー班長 スキー班長</p> <p>全員</p>	<p>全員 (男子) 神谷, (女子) 佐藤 →伊藤</p> <p>伊藤 伊藤 (→指導員) 神谷, 佐藤 伊藤 全員</p>
<p>9:30</p> <p>スキー研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ゲレンデへ引率</li> <li>・スキー研修</li> <li>・ゲレンデパトロール</li> </ul>	<p>9:30</p>	<p>全員 (指導員) (指導員) 教職員</p>	
<p>11:30</p> <p>昼食</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルへ引率</li> <li>・昼食 (スキー班別)</li> <li>・集合</li> <li>・健康チェック (記入表に記入)</li> </ul>	<p>1階大食堂 玄関前</p>	<p>全員 全員 全員 スキー班長</p>	<p>(指導員) 全員</p> <p>伊藤 (→指導員)</p>
<p>13:00</p> <p>スキー研修</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿舎見回り</li> <li>・ゲレンデへ引率</li> <li>・スキー研修</li> <li>・ゲレンデパトロール</li> </ul>	<p>13:00 13:00</p>	<p>全員 全員</p>	<p>西村, 宇賀, 南谷 (指導員) (指導員) 教職員</p>
<p>15:00</p> <p>用具収納</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルへ引率</li> <li>・スキー・ストックの収納, 手入れ</li> <li>・点呼, 報告</li> <li>・身の回り品整理</li> </ul>	<p>地階乾燥室 ロビー 各部屋 地階浴場</p>	<p>全員 全員 スキー班長 全員 全員</p>	<p>(指導員) 藤原, 穂積, 吉川, 清水 伊藤→神谷</p>
<p>入浴</p>	<p>入浴 (帰着順)</p>			<p>(男子) 広, 大矢 (女子) 土屋, 宇賀</p>

休息	・貴重品を出す (各自管理) ・入浴場の整理	入浴後 17: 30	フロント 地階浴場	部屋長 5, 6 組男女 保健係	(男子) 広, 大矢 (女子) 上屋, 宇賀
夕食	・集合 ・着席 (部屋割) ・点呼, 報告 ・諸連絡 ・夕食	17: 50	1階大食堂	全員	全員
夕べのつどい	・集合 (クラス別) ・クラスレクリエーション	17: 50 17: 55	食堂入口	部屋長 全員	担任→伊藤 伊藤 全員
記録	・「記録と反省」個別に記入 (自己評価) 部屋長に提出 ・部屋長会 (「記録と反省」教員に提出)	19: 00	指定場所	全員 全員	担任 担任
就寝	・就寝点呼, 報告 ・見回り	21: 00	各部屋	全員	
		21: 30	2階243号室	部屋長	伊藤, 清水, 穂積
		21: 50	部屋前廊下	全員, 部屋長	担任→神谷 教職員

第4日～第5日 活動スケジュール

活動	動	仕事の内容	集合時間	集合場所	担当者	
					生徒	教職員
6: 30	起床 整理	・洗面, 室内整理, 清掃 ・健康状態報告	7: 10	2階213号室	全員 保健係	全員 西村, 宇賀
7: 25	朝食	・集合	7: 25	1階大食堂	全員	全員



	<ul style="list-style-type: none"> <li>・着席 (部屋別)</li> <li>・点呼, 報告</li> <li>・諸連絡</li> <li>・朝食</li> </ul>	<p>7: 25 7: 30</p>	<p>食堂入口</p>	<p>部屋長 全員</p>	<p>担任→伊藤 伊藤 全員</p>
<p>8: 00</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸準備 I</li> <li>・荷物をまとめる</li> <li>・紛失物調査報告</li> <li>・荷物の移動</li> </ul>	<p>8: 00 8: 10 8: 25</p>	<p>各部屋 各部屋 (男子) 2階 大広間 (女子) 地階 中広間 フロント ロビー</p>	<p>全員 全員 部屋長 全員</p>	<p>担任, 土屋, 広, 穂積巡回 宇賀, 西村 全員</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・貴重品を預ける</li> <li>・清掃点検, 報告</li> <li>・各部屋点検</li> </ul>	<p>8: 35 8: 40</p>	<p>地下乾燥室 地下乾燥室及 び玄関前 ロビー</p>	<p>部長 美化係 全員 全員</p>	<p>大矢, 土屋 (2階) 広, 穂積, 宇賀 (3階) 土屋, 大矢, 吉川 全員 伊藤, 神谷, 佐藤, 吉川, 南谷, 藤田 清水</p>
<p>9: 10</p>	<ul style="list-style-type: none"> <li>・スキー班長打合せ</li> <li>・宿舎見回り</li> <li>・集合, スキー班ごとに整列</li> <li>・点呼, 報告</li> </ul>	<p>8: 50 9: 10 9: 10</p>	<p>スキー班長 全員 スキー班長 玄関前 玄関口</p>	<p>西村, 宇賀, 広 全員 (男子) 神谷, (女子) 佐藤 →伊藤</p>	<p>伊藤 伊藤 (→指導員) 伊藤, 神谷, 佐藤</p>
	<ul style="list-style-type: none"> <li>・準備運動</li> <li>・健康チェック (記入表に記入)</li> <li>・病欠者の確認, 指導員への連絡</li> </ul>	<p>9: 10</p>	<p>整列</p>	<p>全員 スキー班長 スキー班長</p>	<p>伊藤 伊藤 (→指導員) 伊藤, 神谷, 佐藤</p>

9:30	スキー研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・諸注意</li> <li>・記念写真</li> <li>・ゲレンデへ引率</li> <li>・スキー研修</li> <li>・ゲレンデパトロール</li> </ul>	9:30		全員	伊藤 全員 (指導員) (指導員) 教職員 (指導員) 全員
11:30	昼食	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルへ引率</li> <li>・昼食(スキー班別)</li> <li>・集合</li> <li>・健康チェック(記入表に記入)</li> </ul>		1階大食堂 玄関前	全員 全員 全員 スキー班長	伊藤(→指導員) 西村, 宇賀, 藤田 (指導員) (指導員) 教職員 (指導員) (業者), 藤原, 穂積, 広, 生川
13:00	スキー研修	<ul style="list-style-type: none"> <li>・宿舎見回り</li> <li>・ゲレンデへ引率</li> <li>・スキー研修</li> <li>・ゲレンデパトロール</li> </ul>	13:00 13:00		全員 全員	
15:00	用具返却	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ホテルへ引率</li> <li>・スキー, ストックの返却</li> </ul>		玄関前	全員 全員, 用具係	
15:15	閉講式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・集合, 整列(スキー班別)</li> <li>・点呼, 報告</li> <li>・生徒代表あいさつ</li> <li>・スキー学校代表あいさつ</li> <li>・団長あいさつ</li> <li>・諸連絡</li> <li>・ゼッケン回収</li> </ul>	15:15	玄関口	全員 スキー班長 生徒代表 クラス長, 副 クラス長	伊藤 全員 (男子) 神谷, (女子) 佐藤 →伊藤 (進行係) 伊藤 スキー学校側 葛山 伊藤 担任, 生川, 広, 穂積

15: 30	用具返却	靴の返却 <ul style="list-style-type: none"> <li>スキーウェア, 帽子, 手袋等返却</li> <li>貴重品を出す</li> <li>「記録と反省」個別に記入 (自己評価) 部屋長に提出</li> <li>「記録と反省」提出</li> <li>退出準備</li> <li>全館見回り</li> </ul>	15: 30	乾燥室 ギャラリー フロント (男子) 2階 大広間 (女子) 地階 中広間	全員 用具係, 部屋 長 部屋長 全員 部屋長 全員	(業者), 担任 (業者), 担任  清水, 穂積 全員 西村, 宇賀, 土屋, 吉川, 大矢, 生川, 広
17: 15	バス乗車	車内点呼, 報告	17: 20	各号車内	クラス長	担任→伊藤
17: 30	(発車) 湯田中停車	夕食および休息, 買物 点呼報告	21: 40	各号車内 各列車内	全員 クラス長 クラス長, 副 クラス長	全員 担任→伊藤 担任→伊藤
21: 30	長野駅着	車内点呼, 報告				
23: 20	乗車	指定座席に着席				
5: 24	(発車) 名古屋駅着	車中泊 (移動は禁止) 近鉄駅へ移動				
5: 50	(発車)	点呼, 報告		コンコース	全員 全員 全員 クラス長	全員 全員 全員 担任→伊藤
6: 30	四日市駅着	解散				

## 6. スキー研修の効果

スキー研修3泊4日とその事前指導は、生徒に様々な教育的効果を及ぼすであろう。この研修では、評価を指導目的、学習目的のために、その流れの中に多面的に導入を試みたが、それはまた研究目的にも活用できるものであった。以下5点にわたって学習指導の効果を検討する。

### (1) スキー及び団体行動に対する態度変化

スキー及び団体行動に対する態度は資料4に示す様式で3回実施した。感情、評価、行動という態度の3要素に対応する項目を1つずつ作り、7点尺度で回答を求めるという簡略化した内容のものである。第1回調査から第2回調査への結果の変化は、スキー研修の経験のない期間での態度変化量を示す。また、第2回調査から第3回調査への結果の変化は、スキー研修をはさんでの態度変化量を示す。学校教育事態という複雑な事態下での測定であるため、他の多様な要因の関与は前提として考えなくてはならないが、前者の変化量は後者の変化量を指導の効果として判断する場合の有力な比較資料と考えてよいだろう。

表7 「スキー」および「団体行動」に対する態度の変化

対 象	側 面	ス キ ー			団 体 行 動			
		感情	評価	行動	感情	評価	行動	
男 子 (n=108)	pre-test 1	M (SD)	3.81 (1.64)	3.86 (1.62)	3.97 (1.73)	3.15 (1.49)	3.12 (1.43)	3.54 (1.42)
	pre-test 2	M (SD)	4.27 (1.54)	4.19 (1.55)	4.35 (1.65)	3.33 (1.45)	3.41 (1.48)	3.82 (1.45)
	post-test	M (SD)	6.03 (1.43)	5.78 (1.56)	5.89 (1.61)	3.26 (1.44)	3.31 (1.49)	3.72 (1.60)
女 子 (n=75)	pre-test 1	M (SD)	3.11 (1.44)	3.09 (1.51)	3.04 (1.75)	3.13 (1.41)	3.21 (1.35)	3.93 (1.44)
	pre-test 2	M (SD)	3.36 (1.51)	3.61 (1.54)	3.43 (1.58)	3.41 (1.17)	3.55 (1.28)	4.04 (1.34)
	post-test	M (SD)	5.79 (1.41)	5.71 (1.41)	5.81 (1.65)	3.41 (1.40)	3.43 (1.40)	3.88 (1.42)

結果は7点尺度に、ポジティブな方向から7点、6点……1点と与えて集計した。表7には3回の測定に欠けずに回答をした生徒の資料を平均値と標準偏差の形で示した。

a. スキーに対する態度変化

スキー研修に対しては、第1回調査（pre-test 1）に男、女ともにみられるように、3要素とも必ずしも高い値は示されていない。具体的には、「寒い所に行きたくない」、「スキーはしたことがないから不安だ」といった消極的な発言がしばしばみられた。しかし、スキー研修直前の第2回調査（pre-test 2）では男、女ともにやや平均値があがり、態度が好意的になる傾向がみられる。そして、研修後の第3回調査（post-test）では、男、女ともに大幅に好意的な方向への変化がみられる。スキー研修がスキーに対する好意的態度形成を促したことがここに示されたのである。

b. 団体行動に対する態度変化

団体行動に対する態度は、スキーに対する態度のような明らかな好意的方向への変化を示さなかった。一様に pre-test 2 が他の2回の測定よりもやや高い値を示した。女子の行動面の結果を除いて、他はすべて post-test が pre-test 1 よりはやや好意度は増しているとはいえ、その差は大きくはない。研修直前での態度の好意度の高まりは、スキー研修への期待に支えられていたこともあろう。またその他の要因もあるであろう。研修後の低下傾向は期待の大きさに対する成果の少なさを反映したものかもしれない。またその他の要因も関与していよう。いずれにせよ、この問題については教師の経験に基づく持続的な研究が必要になるろう。

(2) ソシオメトリック・テストにみる友人関係の変化

ソシオメトリック・テストも態度調査と同じ時期に計3回実施した。第1回テストから第2回テストの間の変化、第2回テストから第3回テストの間の変化の意味は先の態度調査と同様である。様式は資料4に示した。

集計はやや変則的に行った。問3、問4、すなわち、学年内、学級内の2基準のいずれかで選ばれた友人数（最大6名）、すなわち選択関係がグ

表8 班内友人選択数の変化 単位：人

		pre 1	pre 2	post
生活班	男	5.94 ( 3.19)	5.56 ( 2.77)	6.00 ( 3.68)
	女	8.50 ( 2.84)	8.58 ( 3.55)	9.17 ( 3.58)
	計	6.97 ( 3.30)	6.77 ( 3.44)	7.27 ( 3.96)
スキー班	男	24.67 ( 8.94)	24.78 ( 8.87)	25.22 ( 8.28)
	女	17.56 ( 9.56)	18.67 (10.40)	17.67 ( 9.30)
	計	21.11 ( 9.92)	21.72 (10.14)	21.44 ( 9.58)

( ) 内S D

ループ内に幾つあったかを数えあげ、生活班、スキー班別に班内選択数の平均値を出した。結果は表8に示す。

これによれば、生活班、スキー班ともに、グループ内での選択関係の数がテストの回数にしたがって変化するという明らかな傾向は見出されなかった。すなわち、スキー研修を測定の間にはさんでいるか否かは友人関係に影響を及ぼしていないことが示されたのである。先の態度調査における団体生活への態度変化のなさと同様、対人関係的な側面ではスキー研修の日にみえる効果は見出されなかった。短期には変化しにくい側面であることがうかがえる。また一方、ここでは量的な変化だけでなく、質的な変化についても適切に評価できる方途が必要であったとも考えられるのである。

### (3) スキー技能の習得

スキー指導員には、それぞれ資料3に示すようなチェックリストによって3日間毎日午前、午後の計6回にわたって、当該回の指導内容の習得状況を生徒個人について評価するよう求めた。その結果を表9では男子、表10では女子について班別に示す。これによってスキーの基礎技能の習



表10 指導員の評価によるスキー一技能の習得状況(女子)

単位:人

班 評 価 段 階	11班		12班		13班		14班		15班		16班		17班		18班		19班				
	◎	○	△	×	◎	○	△	×	◎	○	△	×	◎	○	△	×	◎	○	△	×	
用具への 慣れ	7	10			4	5		11		13		1	9		11		12		10		
平地の 技術	7	10			4	5		9	2	1	12		1	9		11		12		10	
	7	10			4	5		11		13		1	9		11		12		10		
	7				4	5		11		13		1	9		11		12		10		
	7				1	8		11		13		1	9		11		1	11		10	
登行の 技術	7				4	5		11		13		1	9		11		12		10		
	7				9			9	2	12		1	9		11		12		10		
	7				9			10	1	12	1	1	9		11		12		10		
	7				9			5	5	13		1					12				
滑降技術	7				9			1	10	13		1	9						10		
	7				9			1	10	13		1	9						10		
	7				9			4	7	13		10					6	5	1		
	7				1	1	7	1	10		10		5	5	1	6	6				
回転技術	7				1	1	8		11		4	5		2	8	1	1	10	5	4	1
	7				1																
	7				10			10	1	13		10					6	6	10		
	7				8			4	3	1	8		10		11		6	6	9	1	
班 人 数	7	10			9			10	1	13		10		11		12		10			
	7				9			11		13		10		11		12		10			
	7				9			11		13		10		11		12		10			
	7				9			11		13		10		11		12		10			

◎:うまくできる ○:一応できる △:かろうじてできる ×:できない



得状況を検討する。指導を予定したポイントは表に示す18項目であった。指導員によって指導内容に個人差がある。また評価の基準も指導員によって差がある。さらに、指導ステップが移りかわることによって、より初歩的なステップの習得状況の最終評価がなされずにしまうこともある。このように信頼性に問題のあるデータであるが故に、表にはできるだけ生に近い形で示した。

男子では、指導の行われた技能については多くの者が習得を終えているようすがうかがえる。とくに滑降から回転といった所で、プルーク、プルークボーゲンまではほとんどの者が到達している（1班で到達していない者が少数いる。8班ではプルークの習得が不十分でプルークボーゲンは全員が到達しているが、これはプルークの評価が途中で終わっているためと考えられる。8班のデータはその他の個所でも最終評価ではないと推測される所が多くある）。

女子は男子に比較して◎という、満足すべき習得を示すデータが初歩の技能でも少ない傾向がある（ただし、女子の指導員に評価基準の厳しい者が多かったという可能性はある）。それでも◎と○の双方の評定を習得の基準とすれば各班ともプルークボーゲンまではほぼ至っている。シュテムターン、パラレルターンについては、男子の1、2班を除くその他の班と同様、女子の総ての班で習得はなされなかったのである。

#### (4)しおりの自己評価票より

しおりにとじこんだ自己評価票（資料2参照）への記入内容は、比較すべき基準がないため、指導による伸びを検討する資料とはならない。しかし、今後の指導に対しての基礎資料として、また、主観的ではあるが、高校教師の経験に基づく効果判断の資料として意味のあるものと考え、次に幾つかの項目について（とくにスキー研修終了ま近の時点での自己評価について）まとめた。

##### a. 自己の変化について

資料2の2月18日の自己評価票1番の項目、「自分自身について、修学

旅行で『変ったな』と思うことをできるだけ多く書きなさい。』という問への回答を、類似の内容はまとめ、無記入等もふくめて17のカテゴリーに分けて男、女別に表11に示した。結果は無記入の数が多い。半数弱の記入者の内容も多岐に分かれている。内容はiを除いてはポジティブなものとなっている。a~hまではパーソナリティーにかかわる内容である。j, kは対人関係にかかわる内容である。l~mはスキー、体力にかかわる内容である。とりわけlへの回答は他のカテゴリーに比べて多い傾向がみられた。

b. 友人の新たな面の発見についての評価

表12には、資料2の2月18日の自己評価票2番目の項目、「友人について、修学旅行で『これまでにないところに気づいた。』ことをできるだけ多

表11 自己評価（自分自身について、修学旅行で「変ったな」と思うこと）

単位：人

	男 (N=129)	女 (N=91)
a. ねばり強くなった	5 (3.9)	1 (1.1)
b. 勇気がついた、大胆になった	4 (3.1)	2 (2.2)
c. 自信がついた	1 (0.8)	7 (7.7)
d. 責任感がついた	1 (0.8)	1 (1.1)
e. 他人に優しくなれる	1 (0.8)	1 (1.1)
f. わがままをがまんするようになった	1 (0.8)	2 (2.2)
g. なんとなく成長した	1 (0.8)	
h. 規則正しい生活に慣れた	4 (3.1)	2 (2.2)
i. 暗くなった、神経質になった	2 (1.6)	4 (4.4)
j. 外向的になった	5 (3.9)	9 (9.9)
k. 仲間と仲良くなった	3 (2.3)	6 (6.6)
l. スキーが上手になった	20 (15.5)	18 (19.8)
m. スキーが好きになった	5 (3.9)	5 (5.5)
n. 体力がついた	2 (1.6)	2 (2.2)
o. 自然の見方が変わった	1 (0.8)	
p. 顔が黒くなった	2 (1.6)	
q. なし、無記入、意味不詳	75 (58.1)	48 (52.7)

( ) 内%

表12 自己評価（友人について、修学旅行で「これまでにないところに気づいた」こと）

単位：人

	男（N=129）	女（N=91）
a. 開放的である	3（2.3）	1（1.1）
b. おもしろい、楽しい	7（5.4）	3（3.3）
c. 親切だ、やさしい、信頼できる	14（10.9）	14（15.4）
d. 他人のことを考えて行動している	6（4.7）	
e. いいところがある	2（1.6）	4（4.4）
f. 意志が強い、よくがんばる	2（1.6）	1（1.1）
g. 協力、助け合いができる	5（3.9）	3（3.3）
h. ふだんみえない性格面をみた		9（9.9）
i. いじける	1（0.8）	
j. つめたい		2（2.2）
k. 不満をもっている		1（1.1）
l. 自分勝手だ	1（0.8）	9（9.9）
m. 他の人の運動能力	4（3.1）	
n. 生活習慣のちがい	2（1.6）	
o. なし、無記入、意味不詳	85（65.9）	55（60.4）

（ ）内SD

く書きなさい。」という問への回答を、先のaと同じ手続きで15のカテゴリーにまとめ、男女別に示した。ここでも60%をこえる無記入がみられた。記入者の回答内容は多様であった。a～gまではポジティブな面の発見である。一方i～lはネガティブな面の発見である。その他h, m, n等もふくめて、相当多面的な他者認知の経験をもったことがうかがえる。

なお、このbの結果は先のaでもいえることだが、そこで記入された内容は言語化し記入した当の生徒以外の生徒にも暗黙の形で広がっている経験であろうことは多少なりとも推測できよう。

#### c. スキー研修への評価

表13には、資料2の2月18日の自己評価票4番目の項目、「修学旅行に社会見学的なものでなく、スキー研修を取り入れたことについて思うことをできるだけ多く書きなさい。」という問への回答を、その内容を肯定的評

価、否定的評価のいずれかに判定し、その他（判定不能のもの）と無答をまとめた3カテゴリーに分けて、男女別に示した。ここでは総じて肯定的評価の割合が大きい傾向がみられた。しかし一方、男、女ともに10%前後の否定的評価があったことも見逃せない。

d. 体調の不調の訴え

表13 スキー研修終了直後のスキー研修への評価

単位：人

	男 (N=129)	女 (N=91)
肯定的評価	76 (58.9)	61 (67.0)
否定的評価	14 (10.9)	9 (9.9)
その他・無答	39 (30.2)	21 (23.1)

( ) 内%

表14 最終日までの体の不調（生徒の記入内容）

単位：人

男 (N=129)*	女 (N=91)*
かぜ、かぜ気味 27 (20.9)	かぜ、かぜ気味 21 (23.1)
腹痛 5 (3.9)	腹痛 8 (8.8)
頭痛 2 (1.6)	寝不足 7 (7.7)
不快感 2 (1.6)	頭痛 2 (2.2)
寝不足 1 (0.8)	すりきず 2 (2.2)
つかれ 1 (0.8)	便秘 1 (1.1)
目がいたい 1 (0.8)	
不詳 1 (0.8)	
なし 87 (67.4)	なし 49 (53.8)

\* 1人で2つ以上の症状を訴えた者もあり、男女計はNより大きくなる。

( ) 内%

表14には2月18日の自己評価票6番目の項目、「(筋肉痛, 打撲以外で), 健康をそこねたことがあればできるだけ具体的に書いて下さい」という問への回答をまとめた。無記入は男子67%, 女子54%と半数をこえたが, かせ, またはかせ気味とする回答が20%少々みられた。その他の不調も各種にわたっている。なお, 引率者の側で処置したものでは38°以上の発熱が3名, 捻挫が1名, 薬の飲み忘れによるけいれん1名が比較的重症の者であった。微熱を訴えた者10数名, 筋肉痛, 打撲は多数いたが, 総じて研修を休むほどの者は比較的少数で済んだのである。

e. スキー研修の満足点

表15, 表16には, 2月18日の自己評価票7番目の項目, 「今回の修学旅行で満足していることベスト3を上げて下さい」という問への回答を, 類

表15 スキー研修で満足したこと (男子 N=129)

単位: 人

1 位		2 位		3 位	
スキーがすべれるようになった 上達した	76 (58.9)	友人との交流	11 (8.5)	たのしかった おもしろかった	5 (3.8)
スキーが好きになった スキーが分った	4 (3.1)	スキーの指導員	9 (7.0)	宿(設備、食事など)	4 (3.1)
スキーで頂上に行けた	4 (3.1)	スキーがすべれるようになった 上達した	6 (4.7)	移動中の乗物の中での活動	3 (2.3)
宿(設備、食事など)	3 (2.3)	宿(設備、食事など)	6 (4.7)	スキーがすべれるようになった 上達した	3 (2.3)
スキーの指導員	2 (1.6)	たのしかった おもしろかった	6 (4.7)	スキーの指導員	2 (1.6)
友人との交流	2 (1.6)	雪、冬景色	5 (3.9)	みやげもの	2 (1.6)
雪、冬景色	2 (1.6)	団体行動がうまくできた	2 (1.6)	その他	4 (3.1)
自由時間、レクレーションの活動	2 (1.6)	移動中の乗物の中での活動	2 (1.6)		
その他	3 (2.3)	その他	4 (3.1)		
無記入	31 (24.0)	無記入	78 (60.5)	無記入	106 (82.2)

( ) 内%

表16 スキー研修で満足したこと (女子 N=91)

単位:人

1 位		2 位		3 位	
スキーがすべれるようになった上達した	51 (56.0)	スキーの指導員	15 (16.5)	おもしろいたのしい	5 (5.5)
スキーの指導員	13 (14.3)	友人との交流	13 (14.3)	スキーの指導員	4 (4.4)
たのしかったおもしろかった	7 (7.7)	スキーがすべれるようになった上達した	6 (6.6)	スキーがすべれるようになった上達した	4 (4.4)
友人との交流	3 (3.3)	たのしかったおもしろかった	4 (4.4)	友人との交流	4 (4.4)
クラスのまとめ、団体行動	2 (2.2)	スキーが好きになったスキーが分った	3 (3.3)	自由時間、リクレーションの活動	2 (2.2)
その他	2 (2.2)	リフトにのれた	2 (2.2)	健康で過ごせた	2 (2.2)
		雪、冬景色	2 (2.2)	その他	6 (6.6)
		クラスのまとめ、団体行動	2 (2.2)		
		宿(食事)	2 (2.2)		
		移動中の乗物の中での活動	2 (2.2)		
		その他	3 (3.3)		
無記入	13 (14.3)	無記入	37 (40.7)	無記入	64 (70.3)

( )内%

似のものをまとめて順位ごとに3位まで示した。表15は男子の結果である。表16には同様の資料を女子についてまとめた。

ここでは男、女ともにスキーの技術の上達が最も多くあげられている。ともに1位として半数以上の者がそのような回答している。女子はまたスキーの指導員に対する満足度の高さを示している。友人との交流も2位の項目としては多くあげられたものに入る。少数ながら雪、冬景色をあげている者もみられた。

表17 感想文中のスキー研修各側面への評価的言及 単位：人

	肯定的評価		否定的評価		中立的言及	
	男	女	男	女	男	女
友人	8 (10.5)	12 (22.6)	1 (1.3)		2 (2.6)	1 (1.9)
団体生活	2 (2.6)	3 (5.7)	1 (1.3)			3 (5.7)
雪・自然	24 (31.6)	18 (34.0)	1 (1.3)		3 (3.9)	
スキー	27 (35.5)	13 (24.5)			14 (18.4)	9 (17.0)
スキー指導員	29 (38.2)	29 (54.7)	4 (5.3)		7 (9.2)	10 (18.9)
スキー研修	13 (17.1)	16 (30.2)	4 (5.3)			
引率教職員		1 (1.9)	1 (1.3)			2 (3.8)
指導計画・ 実施内容			1 (1.3)	2 (3.8)		
自己の変化	5 (6.8)	5 (9.4)				
ホテル従業員	1 (1.3)					

(回答者数：男—76人、女—53人)

( ) 内%

## (5)スキー研修の感想文

スキー研修の総括的な感想文を、帰校後1週間程の間に約6割の生徒に実施し、生徒のうけとめた研修の意義を検討する資料とした。感想文を書かせるための様式は資料5のとおりである。内容からスキー研修における10の側面についてどのような評価的言及を行っているかを判定しまとめたものが表17である。総じて肯定的評価をふくんだ言及が多い。男子では雪・自然、スキー、スキー指導員に対して30%をこえる者が肯定的評価をしている。また友人、スキー研修にも10%をこえる肯定的評価がみられた。女子はスキー指導員に対して50%をこえる者が肯定的言及をしてい

る。また雪・自然，スキー研修に30%以上の者が肯定的評価をしている。友人，スキーにも20%をこえる肯定的評価がなされた。否定的評価は男，女ともに少なく，複数の言及のある項目は男，女計で3カ所にすぎなかった。また，引率者教職員，指導計画，実施内容に感想で言及されることは極めて少ないことが示された。

感想文の具体例を3編，それぞれ少しずつ違った内容をのべているものを取りあげ，下に例示する。

### 〈感想文〉

T. U. (男)

はじめに，スキー場に行くまえには，想どうもできなかったゆうだいな景色，その景色で寒さがふつとび，はやく滑りたくなってきた。

1日目に雪がふって，その雪が結晶となってふってくるのにはおどろいたとどじに，いままでにはなかった気持ちわいてきた。

スキーは寒いから，ぼくは寒いのはきらいだからいやだと思っていた。そしてテレビでみていると，大学生やひまな人があそび半分で行く所だと思っていたのに，スキーがおわってみるともう一度いきたい。なるべく早くお金をためていこうと思う。そしていままでの考え方をぜんぶすててもう一度いきたい。

スキースクールにはいって，ぼくはのろまだからたぶんみんなにめいわくをかけるだろうと思っていよいよだったのに，先生はやさしい中にもきびしくおしえてくれた。そしてスキーはこんじょうだといって，リフトで登ってすべるまえにはかならず気合を入れてくれた。ぼくもびびってはいだめだと思い，いっしょうけんめいすべった。ぼくにはいままでになかったゆうきとこんじょうがわいてきた。

人ならだれでもできるんだと思い，スキーの先生にはかんしゃの気持ちでいっばいだ。そしてまたぜったいいきたい。

### 〈修学旅行中のこと！〉

E. Y. (女)

まず，同じ班や部屋の人たち，それに先生方にひと言などを……。

途中で病気になったりして，いろいろとめいわくや心配をかけてしまって，どうもすみませんでした。

そして，こんな自分をいろいろ気づかってくれて，どうもありがとう。

正直，すごうれしかったです。病気はたしかにしんどかったけど，それ以上に，(少しキザッぼくなるけど)他人のやさしさみたいなものがわかった気がしま



した。本当にみなさんありがとうございました。

そして、〇自分自身について一前にも書いたように友人を見る目がかわったことこれまでイヤな子だと思っていた人まで、いろいろ気づかってくれたので、この人にはこういう面もあるのだと思い、どことなく見る目がかわったような気がしました。

あとは、〇ホテルについて一思ったより小さかったなというのが正直な気持ちです。でも、設備とやっているTV番組だけは最高でした。

〇雪景色について一肉眼(?)ではっきりと雪の結晶を見てうれしかった。きれいでした。あんな小さいものが山全体にのっているのかと思うと不思議な気持ちになりました。

〇スキースクール and スキーの技術について一小島先生は、少しきびしい気もしたけど、おもしろい先生でした。でも、技術の方は、班の中では私が一番ヘタだったのです。そのため、みんなからおくれてしまって、もっとすべりたい子をさんざんおくらせてしまいました。本当にあの時はごめんなさい。

でも、スキーはけっこう楽しいなと思いました。

〇行き、帰りのこと一行きのバスでは、あのバス事故の場所を通った時、もう少ししんみりとした雰囲気になるかと思ったけど意外にも明るかった。なんだかイヤだった。帰りは友達とオールナイトしよう、と話していたけどできなかったので少し残念でした。

さて、スキー研修全体のこと一ふつうよりおもしろいと思う。これから行く子たちが楽しい旅行になるように

そして、自分にかかわった全ての人に本当にありがとう、を言います。

### 〈修学旅行スキー研修の感想文〉

K. I. (女)

——友人に対するものが変わったこと——

最初、生活班がわかった時、あの子とうまくやっていけるかなと少し不安でした。クラスの中であんまし、しゃべらなかつたし、さわいだ事もなかつたから、でも1日がすぎ2日目となるとだんだんなれてきて気軽に話せるようになりました。それに、友達のみられない面もみられ、私が思っていた事とちがうのだなと改めて思いました。以前より仲よしになったと思う。

——スキースクールについて——

第1日目のスキースクールはとてもしんどかった。なぜなら、私たちのスキーの指導員はとてもしんどく、こわかつたからです。

少しでもまちがえると「何をしとる！何をきいていたんだ！」とか、ぼろくそにいわれ泣けてきそうになりました。

私はなかなか八の字ができなくてころんばかり、途中で「お前らは授業中は

何もきいてないんやろ、おれはスキーの研修にきたんや！する気のない者は、とっとと帰れ」なんていわれてとてもくやしかった。

「私たちだって一生懸命やっているのになぜそうボンボンしかられるんやと思った。」でも、2日目になると先生もやさしくなり、みんなブルークボーゲンができるようになりました。最終的には、「きびしかったけど、先生は私たちの事を思ってあんなにきびしくしてくれたのだなぁ」と思いました。とてもよい先生にめぐりあってよかったとおもう。それから閉会式の時、先生と思いきりあくしゅしてきた事が思い出となりました。

——修学旅行にスキー研修をとりいれたこと——

最初はとてもいやでしかたなかったけど、自分でスキーができるようになり、だんだんとたのしくなってきたし、体力もついて、「スキー研修はとてもよかったな」と思う。「また、スキーにいきたいなぁ」と思っています。 おわり

#### (6)指導目標と指導の効果

指導の効果は(1)～(4)に示したとおりである。これを再度、3の(1)に記述した指導目標に対応させて以下にまとめてみる。

##### ①体力づくり

目標をもったの体育授業における週1回の持久走、冬休みのなわとび等の指導を行った。効果を数量的に示すことはできなかったが、その指導機会を設定しえたことが成果の一つであろう。また、研修中の病気、けがの少なかったこともこの面での成果といえるであろう。

##### ②スキーの基本技能の習得

スキー技能の進歩は、指導員の評価票に記入されたが、評価基準の個人差等から信頼性が低いと判断され、適切に数量化して示すことはできない。しかし表9、表10に示された習得状況は一応満足すべきものとわれわれは考える。さらに、スキー研修への自己評価、感想文では、スキー上達を前提にした回答が多く出されている(表11、表15、表17)。またスキーに対する好意的態度も増加している。この側面でも積極的な成果を多く見出すことができたのである。

##### ③仲間づくり、学級集団づくり及び人間関係維持技能の習得

この領域の効果を判断するのに適切と考えられる二つのデータ、すなわ

ち団体生活への態度変化、ソシオメトリック・テスト結果の変化では、スキー研修による積極的効果を見出さなかった。ただし先にも言及したように、それら数量面のみでは判定できない部分もあるように思われた。表12にみられるように、他メンバーとの接触の過程で様々な体験をしていることが報告されているのである。さらに、生徒同士以外に、対指導員という新しい人間関係を経験したことは内容はさまざまながら有意義であろうことは表17などからうかがえるのである。

#### ④基本的生活習慣

この側面については評価は行わなかった。ただ総じて宿泊所、スキー・スクールからの、生徒の態度に対する評価はよく、事前指導にはじまるスキー研修中の指導効果が生徒の生活の中に反映されていたように思われる。

#### ⑤自己評価を軸とした主体的学習活動への方向づけ

自己評価活動は積極的に導入された。この活動がどんな場面に転移効果をもつかは長い目でながめていかななくてはならない。ただし、表11にみられる自己のパーソナリティーの変化や表13にみられるスキー上達に伴う自信の獲得など、研修中でも自己評価を通して積極的な体験がなされたことは意味のあることと思われる。

総じてスキーへの満足度が高かったが、これは生徒にとっての望ましい体験の場をスキー研修が提供したことを示していよう。冬の自然に対する素直な感動なども、体験として重要な意味をもつものといえるだろう。

## 7. 反省と今後の課題

このスキー研修は、朝明高校の第1回目の活動であり、反省点や今後の課題も多い。研修後の3月4日に教員の反省会が開かれている。そこでまとめられた実践的な反省も加えて、以下にこの問題を検討する。

スキー研修の計画にかかわる面では、教師の反省会では次のような意見が出された。

○スキーをする時期としては2月中旬は最適であったが、期末テストや

授業進度に好ましくない影響を与えた。

- 研修不参加の者に対する処遇計画が不十分であった。
- 体育授業での持久走を中心とした基礎体力トレーニングが効果的であった。
- しおりの準備が遅れたことなどから、全体の作業の遅れがみられ、直前になって忙しい思いをした。
- 応答、礼儀作法等の指導が十分できなかった。生徒の係毎の会議も事前にもつべきだった。
- 実行委員会ができたことにより、「生徒参加」を高めることができた。その他の意見も出されたが、主なものとして以上の事項を掲げておく。

このような反省に加えて、さらに目標面での課題を一つとりあげたい。

中込、大塚、小林(1979)の研究では、スキー実習期間中の体験過程が自己概念の変化に及ぼす影響を、大学生を対象に実証的に研究し、事前指導によってスキー実習に自我関与の高まった者に実習経験のポジティブな影響がうかがえることを報告している。総じて教師の視点が生徒の進行的問題行動に向きがちだという Wickman (1938) の指摘や、心理臨床家的な視点の有効性を明らかにした小川(1958)の研究からも示唆されるように、自己概念の変化といった、精神健康面への指導の着眼も教師には必要であるように思われる。そのための指導手続きや評価手続きの検討、開発は重要であろう。

研修の実施過程の反省として、教師の反省会では次のような事項があげられた。主な例を示そう。

- 服装、宿舎の自己管理等は比較的指導通りよく行われた。
- 引率者が交替で行ったゲレンデ・パトロールは行ってよかった。幾つかの問題の処理ができた。
- 移動スケジュールの中に長い自由時間が入り、ことに引率者は生徒管理につかれた。移動車内では問題はなかった。
- 保健面では生徒の自覚不足が感じられた。

さらに、結果的に有意義だったと感じられる1点を掲げたい。それは、

宿舎内でのスケジュールがゆったりしていたことから、引率者同士の話し合いの時間を多くとることができ、ことに毎日の夜の部屋長会議で引率者側から生徒に注意、指示を行うための十分な準備、打合せができたことである。スキー研修にあたっては、研修全体の目標の明確化につとめた。研修に入ってから生ずる問題の解決にあたっては、それを生徒が主体的に受けとめられるようにするためには、教師の側の目標明確化への営みが同様になくしてはならない。場あたりの、教師によって見解を異にするような指示、指導では、生徒の問題へのとりくみの構えを適切につくることができない。また引率者自身も適切な指導ができない。今回の研修の準備過程では、引率者は通常以上の協力体制を敷いて活動をすすめてきた。それが研修中の時間的余裕を生徒の指導に有効な形で一致協力して利用する背景になっていたと考えられる。研修中は、こういった注意、指示の徹底を反映してか、食事をはじめとする集合時間に遅れる生徒は皆無に等しく、各活動をスムーズにスタートさせることができた。服装の指示も徹底し、指示と異なる服装をした者はほとんどみられないという成果であった。

さて、この研修では指導目的の評価が多面的に行われている。中でもとくに反省と今後の計画の資料としたいものは、友人関係、団体生活といった対人的な側面での効果の小ささである。質的には見るべき成果もあったとはいえ、指導計画に際して改善すべき諸点を多く含むであろう。スキー・スクールの側の条件もあり、グループ・サイズがスキー班でとくに大きくなったケースが多いことも問題点の一例としてあげることができる。事前指導でも、この側面の指導内容の一層の工夫が必要であろう。また、直接友人関係とはかかわらないが、感想文中に引率の教職員に対する言及がほとんどみられないという点は気にかかる結果である。生徒と教職員の研修中の交わり方についても工夫の余地があるかもしれない。教員は学級集団の重要な一員であるという点を十分に確認すべきであろう。単に友人関係にとどまらない、全体的な人間関係のダイナミックスにまで目を配る努力が必要であろう。

## 〈付記〉

本論文は、調査デザイン立案ならび論文内容に対して直接的に責任を負う4名を連記して発表した。スキー研修の準備、実施、さらには計画上のアイデア等には、朝明高校教頭の葛山博次、教諭の清水保治、藤田砂江、藤原直哉、南谷成子、大矢賢治、廣貴志男、土屋文生、穂積致章、生川秀次、宇賀美和子、西村宮子の諸先生の適切かつ経験豊かな指導活動と御努力があったことを明記しておく。事務職員吉川一仁氏には引率者として御世話になった。

なお、スキー研修の実施と研究活動に対して、朝明高校校長因一信先生の深い御理解と手厚い御援助があったことを感謝とともに記しておきたい。

## 文 献

- 旭スズエ 1982 修学旅行についての一考察——旅行実態調査10年目の変遷をふまえて——お茶の水女子大学附属中学校研究紀要, 12, 81-100.
- 保健体育科スキー訓練実行委員会 1981 スキー合宿 愛知県立稲沢高等学校研究紀要, 1, 19-21.
- 堀健三・鈴木幹也 1975 修学旅行にかわる学習旅行の展開 愛知県立岡崎東高等学校紀要, 1, 11-12.
- 稲垣昇・澤部渉・杉田敏行・中嶋肇一・井上郁代・大河まさ子・伊藤雅祥・朝倉健旨・鈴木秀治・長谷川敏哉・後藤かつ子・神戸敦 1981 修学旅行における班別研究の指導 愛知県立小坂井高等学校実践集録, 5, 33-40.
- 笠間達男 1978 学校行事 堀久編 改訂高等学校学習指導要領の展開(特別活動編) 第2章のD, 明治図書, Pp.130-149.
- 川本徹・太田博道・佐治英泰・伊藤雅哉 1981 修学旅行(スキー訓練)の実践 愛知県立高蔵寺高等学校研究と実践, 2, 65-93.
- 校外学習研究会 1982 校外学習スキーとサマープログラム 愛知県立新城東高等学校研究紀要, 2, 1-13.
- 毛受明人・猪又重広 1978 望ましい修学旅行について——新しい修学旅行をめざして——愛知県立守山高等学校研究と実践, 1, 1-12.
- 文部省 1978 高等学校学習指導要領(昭和53年改訂版) 明治図書.
- 中込四郎・大塚美栄子・小林禎三 1979 スキー実習中の体験過程と自己概念の変化に関する研究 北海道教育大学紀要(第2部C), 29-2, 11-18.
- 小川一夫 1958 児童生徒の問題行動に対する教師の態度に関する研究 第四報告 教育心理学研究, 5-2, 18-24.
- 佐々木貞 1985 着実に増える体験的修学旅行 内外教育, 3677, 2.
- Shaw, M. E., & Shaw, L. M. 1962 Some effects of sociometric grouping upon learning in a second grade classroom. *Journal of Social Psychology*, 57, 453-458.

- 鈴木稔・市川光彦・森田昶生，鈴木幹也・北川勝・馬場猛・石川均・永田裕孝・初谷博昭・鈴木健治・小林百合子 1976 昭和 51 年度 1 年生学習旅行実践報告 愛知県立岡崎東高等学校研究紀要，2，11-18.
- 鈴木稔・小幡正躬・森田昶生・北川勝・本多勲・小林順次・石川均・永井康夫・永田裕孝・河合朝晴・大島一嗣・三浦修嗣・岡田芳明・小澤正樹・小林百合子・青木伸江 1977 昭和 52 年度 1 年生学習旅行実践報告 愛知県立岡崎東高等学校研究紀要，3，28-37.
- 鈴木洋一郎 1971 学校行事における修学旅行の在り方——実施計画と問題点の検討—— 名古屋大学教育学部附属中・高等学校紀要，17，29-35.
- Wickman, E. K. 1928 Children's behavior and teachers' attitudes.
- 山田猛 1979 「1 年生スキー研修」についての報告（冬期宿泊研修） 愛知県立作手高等学校研究紀要，2，71-86.
- 山田猛 1980 「1 年生スキー研修」についての報告（冬期宿泊研修） 愛知県立作手高等学校研究紀要，3，75-94.

### 〈資料 1〉スキー研修の参加心得内容

#### V 心 得

##### 1. 態度

###### (1) 個人

- a インフルエンザ等に対する健康管理，トレーニングによる体調の調整に心がける。（出発前）
- b 乗り物酔いの予防をはじめ，皆が車中楽しくなるように協力する。（車中）
- c スキーの技術習得に努力する。（研修）
- d 就寝時間を守り，睡眠を十分とることによって疲労の回復につとめる。（宿舎）

###### (2) 集団

- a ホームルームや体育授業等の事前活動時に，班活動がスムーズにできるように個人の能力に応じた役割を決めたり，良い結果が出るように班目標を決定する。（出発前）
- b 楽しく車中を過ごせるように計画，準備し，皆の協力を得る。（車中）
- c 事前の文献学習とスキー指導員の指導をよく理解し，班員がお互いに欠点を指摘したり，長所を賞賛し合う。（研修）
- d アフター・スキーの計画と実行を皆でおこなう。（宿舎）

##### 2. スキー技能

スキーを開いて，長いコースをスピード・コントロール（滑る，止まる，まわる）しながら，安全に目的地に着くことができる。

##### 3. 諸注意





{	預け入れ時間	8時～8時30分	}
	引出し時間	16時～17時	

- (7) スキー研修以外の事由で外出することはできない。
- (8) ロビーへは買物以外出ないこと。
- (9) 午後10時以降、割り当てられた部屋以外の部屋への立入は厳禁。
- (10) 宿舎到着後、各部屋までは靴。靴は各室の靴棚に入れ、それ以後は各室のスリッパを使用する。
- (11) ゲレンデから帰った時、宿舎の出入口、舎内に雪を持ちこまないようスキー靴、板、ウェアの雪の始末に注意し、スキー・ストックは乾燥室の所定の箇所に収め、スキー靴はスリッパにはきかえて各自の部屋に持ちかえる。（スキー靴で舎内を歩くことは禁止）
- (12) 全員、舎内の美化を心がけ、各部屋の整理と清掃を協力して行なう。（各人の荷物はバッグ辺に積み重ね、ふとんは就寝時以外折畳んでおく）
- (13) 舎内でのゴミ処理は燃えるゴミと燃えないゴミに区別して行なわれるので、各室のゴミは宿舎より配布された袋へ別々に入れ、毎朝各部屋の前に出しておくこと。

#### 健康管理

- (1) 健康の保持は各自の責任である。研修中はもちろん、研修前から十分睡眠をとり、暴飲暴食をつつしみ体調を整えなければならない。
- (2) 万一、異状を感じたり傷をした場合は、指導員、担任に申し出る。
- (3) 救急薬品は学校で準備して万全を期すが、病癖や酔ぐせのある生徒は各自の責任において十分にその対応策をたてておく。
- (4) 事前指導の注意をよく守り、ジョギングなど家庭で体力的なトレーニングをつんでおく。
- (5) しおりをよく読んでスキーの知識を深め、安全を心がける。

#### スキー研修（実技）

- (1) 日程表による集合時刻、場所は厳守し、班長は責任をもって班員を集め、点呼、報告する。
- (2) 指導員の指示をよく守り、身勝手な行動はしない。また指導員に対する「おはようございます。」「ありがとうございました。」などのあいさつを皆元気よく声出してしよう。
- (3) スキー・ストックの取扱いは、乾燥室の出入り等混雑している場合、特に慎重に行い、不注意、ふざけによるケガのないようお互いに十分注意すること。接触したときは声をかけてから離れる。
- (4) 研修時間以外、勝手にスキーの練習をしない。
- (5) 研修時間中、病気以外の事由で宿舎に居残ることは禁止する。
- (6) 研修中、体調が悪くなったりケガなどした場合には余り無理せず、指導員

に申し出て指示を受け、ゲレンデパトロールの教員に連絡する。

- (7) 使用中のスキー用具の故障の場合も、指導員に申し出て指示を待つ。
- (8) レンタル用品（スキーセット、ウェア、帽子、手袋）を傷めたり、紛失しないよう各自十分注意し、自分のゴーグル保管にも留意する。
- (9) 最終日、ウェア類返却の際、ポケットに小物や貴重品を入れたまま返すことのないよう、袋へ整理しながら再確認すること。

## 〈資料2〉自己評価票

記 録 と 反 省			
月 日	事前指導 1	セッションNo	氏名
	1. 修学旅行は、いつ、どこで、何をしますか	(時)	(場所) (内容)
	2. あなたの生活班は、何号室で、部長は誰ですか	(部屋番号)	(部長氏名)
	3. あなたの生活班員の氏名を正確に書きなさい		
	4. あなたのスキー班は、何班で、班長は誰ですか	(班名)	(班長氏名)
	5. あなたのスキー班員の氏名を正確に書きなさい		
	6. 今日の事前指導で感じたことを書きなさい		

( ) 月 ( ) 日事前指導2 (回答欄省略)

1. 修学旅行の目標を書きなさい。
2. あなたの修学旅行中の係は何ですか。
3. あなたの係に関係している先生は誰ですか。
4. その係の仕事は何ですか。
5. 今日の事前指導で感じたことを書きなさい。

2月13日直前指導 (回答欄省略)

1. 修学旅行に先立って、先生から指導されたことがらを簡条書きで書きなさい。
2. 修学旅行で、あなたが体験できることの期待は何ですか。簡条書きで書きなさい。

2月14日第1日目 (回答欄省略)

1. 四日市に忘れてきたもの、心残りのものは何ですか。

2. バス旅行中で、良かったことは何ですか。
3. バス旅行中で、悪かったことは何ですか。
4. 熊の湯ホテルの第一印象はどうですか。できるだけ具体的に書いて下さい。
5. その他、感じたことがあれば書いて下さい。

2月15日第2日目 （回答欄省略）

1. 雪景色について、具体的に感想を書きなさい。
2. スキースクールの先生について、感想を書きなさい。
3. スキー装備について
  - a. スキー靴はうまくはけましたか。
  - b. スキー板の脱着はうまくできましたか。
4. 初歩的動作について、
  - a. スキー板の運び方について、うまくできましたか。
  - b. うまくころぶことができましたか。
  - c. うまく立ちあがることができましたか。
5. 身体の部位で筋肉痛の箇所を●で、打撲の箇所を△で、捻挫の箇所を×で記しなさい（人体図を付ける）。
6. 午前と午後で、何回ころびましたか。
7. その他、友人、先生、ホテルなど今日一日で感じたことを書きなさい。

2月16日第3日目 （回答欄省略）

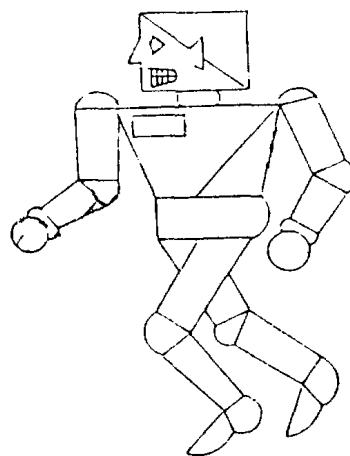
1. スキー装備について困っていることはありませんか。
2. 友人関係について困っていることはありませんか。
  - a. 生活班
  - b. スキー班
  - c. その他
3. スキー実習で困っていることはありませんか。  
（以上1～3は「ある」、「なし」の2件法）
4. 身体の部位で、筋肉痛の箇所を●で、打撲の箇所を△で、捻挫の箇所を×で記しなさい。
5. 今日、午前と午後で何回ころびましたか。
6. ホテル関係で困っていることはありませんか（2件法）。
7. 紛失したものはありますか。
8. お土産は何を買いましたか。
9. そのお土産の相手は誰ですか。

2月17日第4日目 （回答欄省略）

1. スキー技術で、あなたができるようになって一番うれしい技術は何ですか。
2. 人間関係について、友人、先生（スキースクール、学校）、ホテルの人、一般のスキーヤーなどに対して、発見したことを具体的に書いて下さい。
3. スキー場の3日間を通して、はじめあなたが想像していたことと、大きく変わったと思うことをできるだけ多く書いて下さい。
4. 身体の部位で、筋肉痛の箇所を○で、打撲の箇所を△で、捻挫の箇所を×で記しなさい。
5. 今日、午前と午後で何回ころびましたか。
6. 修学旅行を通して自分自身「変わったな」と思うところを書きなさい。

## 記録と反省

2月18日 修学旅行を終えて	アンケート No.	氏名
1. 自分自身について、修学旅行で「変わったな」と思うところをできるだけ多く書きなさい。	1	5
	2	6
	3	7
	4	8
2. 友人について、修学旅行で「これまでにない」ところが気づいたところをできるだけ多く書きなさい。	1	5
	2	6
	3	7
	4	8
3. 先生を含めて、修学旅行所という団体について満足している点、不満な点を、できるだけ多く書きなさい。	満足点	不満点
	1.	1.
	2.	2.
4. 修学旅行を社会見学的なものではなく、スキー研修を取り入れたものについて思うところをできるだけ多く書きなさい。	1.	1.
	2.	2.
5. 身体の部位で、筋肉痛の箇所を○で、打撲の箇所を△で、捻挫の箇所を×で記しなさい。		
6. 上記以外に、健康をこわしたことがあればできるだけ具体的に書いて下さい。		
7. 今回の修学旅行で満足していること(3つ)を上げてください。	1位	
	2位	
	3位	



〈資料3〉 スキー指導員による技能進捗評価票

(資料No.6)

〈資料3〉 スキー指導員による技能進捗評価票

氏名	12班11名	指導員											指導員名	鍋	期		
		金子美子	下由美子	松山由甲	藤清	北織	白見	堀美	長谷川美子	森子	矢美	横美					
1) 昨夜はよくねむれた (○)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
2) 腹八分目の食事がとれた (◎)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
3) 快い便通 (○) 便秘 (×) 下痢 (△)		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
4) (女子のみ) 生理痛 ( ) 日目		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
5) 筋肉痛で動きにくい所		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
6) その他、熱などで痛い所		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
7) 何か異常があれば、書け		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
欠席																	
ゼッケンNo		133	139	140	228	231	232	238	239	240	241	242					
実施																	
用具への																	
① スキー携行法		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
② 着脱		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
平地の		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
③ 歩行		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
技術		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
④ 滑走		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑤ 方向転換		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑥ 転倒		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑦ 起立		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑧ 階段登行		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
登行の		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑨ 斜め階段登行		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
技術		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑩ 開脚登行		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑪ 直登行		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
滑降技術		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑫ 直滑降		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑬ 斜滑降		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑭ 横滑り		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑮ フルーク		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
回転技術		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑯ ブルークボーゲン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑰ ブルークターン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑱ シェデムターン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
⑲ バラレルターン		○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○
その他		欠															

◎うまくできる ○一応できる △かろうじてできる ×できない

2月15日 午前・午後 指導員名 鍋 ● 期 ●

〈資料 4〉 ソシオメトリック・テスト、態度調査の様式

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

1. 「スキー」についてどう思いますか。記号を○で囲みなさい。

と て も	か な り	や や	や や	か な り	と て も	
好き						嫌い
悪い						良い
やり たく ない						やり たく ない

2. 「団体行動」についてどう思いますか。記号を○で囲みなさい。

と て も	か な り	や や	や や	か な り	と て も	
やり たい						やり たく ない
嫌い						好き
良い						悪い

3. 同学年で親しい友人の名を 3 人書きなさい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

4. クラス内で親しい友人の名を 3 人書きなさい。3 と重複してもよい。

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

\_\_\_\_\_

〈資料 5〉 感想文の様式

「修学旅行スキー研修」の感想文

2 年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

下の項目から、1 番心に残っているテーマを選び、に、それを書いた上で、できるだけ具体的に、簡条書きで、書きなさい。また、そのほかにも書きたいテーマがあれば上と同様の形式で、書きなさい。

- ①自分自身が変わったと思うこと (例) 性格、行動、考え方、勇気、体力、など
- ②友人に対するものが変わったこと (例) 考え方、性格、行動、友人関係、協力、チームワークなど
- ③団体行動についてわかったこと (例) 時間を守る、規則を守る、みんなでする、など

- ④ホテルについて（例）部屋，ロビー，フロ，トイレ，みやげ，など
- ⑤雪景色について（例）冬山，寒さ，雪，雪の結晶，など
- ⑥レンタルウェアなどについて，
- ⑦スキースクールについて（例）指導員，指導方法，調査，など
- ⑧スキーの技術（例）直滑行，斜滑行，プルーク，プルークボーゲン，プルークターン，シュテムターン，パラレルターン，など
- ⑨行きのバス旅行，帰りの夜行列車，について
- ⑩修学旅行にスキー研修をとり入れたこと
- ⑪その他

（\*以下B4用紙2/3のスペースに記入させる）